

講義コード	1116330000
講義名称	政治学B　＜秋＞
科目英文名	Politics B
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	POLS1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塚田　鉄也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	世の中には、さまざまな考え方や価値観、利害を持った人がいます。そして、そうした異なる価値観や利害が併存するなかで、共通の問題に対処したり集団としての方針を決めようとするときに必要になるのが政治です。本講義では、日本をはじめとする各国の政治や国際政治において、異なる価値観や利害が実際にどのような制度や過程を通じて調整されているのかを考察していきます。
学習（到達）目標	①政治の基本的な制度や過程について理解し、説明できる ②そうした理解に基づいて現実の政治を理解し、説明できる

講義・演習計画

回	内容
第1回	政治学を学ぶ意義
第2回	政治制度
第3回	議会制度
第4回	選挙制度
第5回	政党
第6回	官僚制
第7回	利益団体
第8回	メディアと政治
第9回	地方自治
第10回	戦後の日本政治
第11回	国際政治①：国際政治の基本構造
第12回	国際政治②：安全保障
第13回	国際政治③：国際機構
第14回	国際政治④：戦後日本の国際関係
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	2週に1度、計7回実施する確認テスト（WebClassの「テスト」を利用）の平均点により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	川出良枝・谷口将紀編	政治学（第2版）	学生独自購入	9784130322355	東京大学出版会	

参考文献	村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣、2023年）
事前および事後学習の指示	テキストの指示された部分を事前に読んでください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：政治学）02～19生読替

講義コード	14D2020000
講義名称	経済学史Ⅱ〔2〕　＜秋＞
科目英文名	History of Economic Thought Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
北田　了介

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。 本講義は、18世紀以降の経済学説（古典派経済学、マルクスの経済学、ケインズによるマクロ経済学）とその時代背景をたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。
学習（到達）目標	経済学説の歴史をととして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、それぞれの時代の経済学という知の形式がどのように成立したかをさぐっていく。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション 経済学および経済学史を学ぶことの意義
第2回	アダム・スミスの経済思想（1） 『道徳感情論』における道徳哲学の原理
第3回	アダム・スミスの経済思想（2） 『国富論』における分業論および価値・価格論
第4回	アダム・スミスの経済思想（3） 『国富論』における資本投下の歴史と「重商主義」批判
第5回	マルサスの経済思想（1） 『人口論』における人口原理の解説と啓蒙思想への批判
第6回	マルサスの経済思想（2） 救貧法の歴史的展開と「食料高価論」における救貧法批判
第7回	リカードの経済思想（1） 古典派経済学における労働価値説の方向付け；利潤率と賃金率の相反的関係について
第8回	リカードの経済思想（2） 差額地代論と利潤率の低下について
第9回	リカードの経済思想（3） 比較優位説による自由貿易論の根拠づけと、1810年代の穀物論争について
第10回	J.S.ミルの経済思想 『経済学原理』における社会哲学としての経済の分析：定常状態論の意義の探究
第11回	マルクスの経済思想（1） 「初期マルクス」の思想：「ヘーゲル批判」および『経済学・哲学草稿』について（哲学研究から経済学研究へ）
第12回	マルクスの経済思想（2） 『資本論』の思想①：商品論と剰余価値論について

第13回	マルクスの経済思想（3） 『資本論』の思想②：資本蓄積の分析から利潤率と低下へ
第14回	新古典派経済学の経済思想 19世紀後半のヨーロッパと新たな価値理論（限界効用理論）の登場
第15回	ケインズの経済思想 20世紀前半の経済環境とケインズのマクロ経済政策

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	授業ごとに提出してもらレポートおよびコメントペーパーの内容によって評価を行います（第1回目2点、それ以降の14回は各7点満点で採点）。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	北田了介（編著）	教養としての経済思想	大学オンライン販売	978-4-86065-119-0	萌書房	

参考文献	講義内で随時紹介する。
事前および事後学習の指示	講義に際しては事前学習および事後学習が必要である。事前学習（授業ごとに2時間）では教科書を熟読するとともに、授業内で指示された参考文献に目を通しておくこと。事後学習（授業ごとに2時間）では教科書内に示されている章末問題について、正確な解答を作成することが望まれる。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：経済学史) 02～10生読替

講義コード	14D4710000
講義名称	公共経済論Ⅰ　＜秋＞
科目英文名	Public Economy Ⅰ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2540
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
西崎　勝彦

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	市場経済では財・サービスが市場で取引され、市場を通じて財・サービスが生産・消費される。市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが、市場は万能ではなく、ときに「失敗」することもある（例、規模の利益による自然独占）。また、市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが、価格がうまく決まらない財・サービス（例、公共財）は市場での取引が難しい。こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの生産・消費を分析するための学問が公共経済学である。この授業では公共経済学の基礎について説明し、市場経済における公共部門の役割について考える。 この授業では、公共経済学における分析の基本となるミクロ経済学の復習も兼ねて、まずは市場の「成功」について説明する。それを踏まえて「公共財」と「外部効果」が存在する経済について説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として履修者に配布する）。履修者にはいくつかの授業で課題（計算問題を含む）に取り組んでもらい、その解答を提出してもらう（授業の最初に前回の課題を解説する）。
学習（到達）目標	(1) 市場の「成功」と「失敗」を理解する。 (2) 公共財の性質とその供給に関する問題を理解する。 (3) 消費・生産によって生じる外部効果と、それへの対応を理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業内容の説明および公共経済学の概説
第2回	消費者行動
第3回	生産者行動
第4回	市場と価格メカニズム
第5回	市場の均衡と効率性
第6回	厚生経済学の基本定理
第7回	市場の「失敗」
第8回	公共部門の役割
第9回	公共財の性質と「ただ乗り」問題
第10回	公共財の供給
第11回	外部効果と生産者行動
第12回	外部効果と消費者行動
第13回	共有地の悲劇
第14回	公共経済学の展開
第15回	授業内容の総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	第2-13回の授業内で毎回課題（短答式，計算問題を含む）を出す（上記「その他」に該当）。対面授業を基本とし，授業の残り20分ほどで課題に取り組んでもらい，その解答を任意の用紙に記入して写真に収め，その写真データを授業日の翌日までにWebClass経由で提出してもらう（Wordファイルなどその他の電子媒体でも構わない）。 第13回の授業が終わった段階で，いくつかの授業に関するレポート課題を履修者に無作為に割り当て（履修者によってレポート課題が異なる場合がある），そのレポート（論述式）をWebClass経由で提出してもらう（上記「レポート」に該当）。 授業内の課題およびレポート課題の詳細については第1回の授業で説明するので，履修者は必ず確認すること（授業に出席できなかった場合は担当教員に問い合わせること）。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	奥野信宏	公共経済学	大学オンライン販売	978-4000266970	岩波書店	本書に基づいてスライドを作成し，それを授業資料として履修者に配布する。

参考文献	緒方隆，須賀晃一，三浦功〔編〕（2006）『公共経済学』勁草書房。 岸本哲也，入谷純〔編〕（1998）『公共経済学』八千代出版。 須賀晃一〔編〕（2014）『公共経済学講義－理論から政策へ－』有斐閣。 ジョセフ・E・スティグリッツ／藪下史郎〔訳〕（2003）『公共経済学』東洋経済新報社。 常木淳（2002）『公共経済学 第2版』新世社。 土居丈朗（2018）『入門公共経済学 第2版』日本評論社。
事前および事後学習の指示	新聞やテレビなどで取り上げられている，日本政府や地方自治体が関係している経済ニュースに目を通すなどして，問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：公共経済論）02～10生読替（E・CBCC・J生のみ）

講義コード	14D5810000
講義名称	国際金融論〔2〕　＜秋＞
科目英文名	International Finance
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	FINC2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
井田　大輔

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	本講義ではまず為替レートとは何かを学び、外国為替市場の仕組みについて概観する。外国為替取引や国際収支勘定、国際通貨等の基本的な理解を深めたのち、為替レートの決定理論を学ぶ。講義の後半では、近年の国際金融を巡る諸問題について、個別にテーマを取り上げる。具体的には、ユーロに代表される通貨統合の問題、サブプライムローン問題や欧州債務危機、アジア通貨危機などである。また、最新のトピックも扱うことを予定している。
	※この授業はBYODを想定しています。基本的に、「毎回教室にノートPCを持参する」ことを推奨する科目となっている点にご留意ください。
学習（到達）目標	リーマン・ショックや欧州債務問題は、日本を含む世界各国の景気を悪化させた。日本経済を分析する上でも、世界の相互依存関係を考慮した国際金融的な視点が重要になる。本講義では、為替レート決定等の国際金融現象を、経済理論を用いて分析・理解するとともに、国際金融社会の諸問題についての理解を深めることを目的とする。本講義を通じて、様々な国際マクロ経済政策に対する判断力を養う。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション（講義内容の説明、成績評価などのガイダンス）
第2回	国際金融と私たちの暮らし
第3回	基礎概念や用語の復習：貨幣・金利・金融システム
第4回	経済活動と国際収支
第5回	外国為替市場：為替レートの役割
第6回	為替レート決定理論（短期）：金利平価説
第7回	為替レート決定理論（長期）：購買力平価説
第8回	経常収支と為替レート
第9回	為替相場制度と為替介入
第10回	国際マクロ経済政策
第11回	アジア通貨危機
第12回	サブプライム金融危機
第13回	欧州債務問題
第14回	為替レートの変動と日本経済
第15回	まとめと期末テスト

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	期末テスト60％（対面実施）と平常点（その他）40%を総合的に評価します。平常点も授業内でのwebclassを用いた小テストや小レポートなどを予定しています（つまり対面での実施を想定）。コツコツと授業に出て、しっかりと授業内容を把握することが大切です。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	教科書は使用しません。資料を配布する予定です。					

参考文献	岩田規久男『国際金融入門』岩波新書 内田浩史『金融』有斐閣 鎌田康一郎『金融論』新世社 佐藤綾野・中田勇人『国際金融論 15 講』新世社 清水順子・大野早苗・松原望『徹底解説 国際金融』日本評論社 清水順子『悪い円安 良い円安 なぜ日本経済は通貨安におびえるのか』日経プレミア新書 白井さゆり『欧州迷走』日本経済新聞社 福田慎一『金融論』有斐閣 藤井英次『国際金融論』新世社 藤木裕『金融の基礎(第 2 版)』東洋経済新報社 その他、適宜指示します。
事前および事後学習の指示	詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。金融論Iを履修しておくにより理解が深まるであろう。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	金融論、国際経済学、金融政策、金融システム、ミクロ経済学、マクロ経済学
備考(管理者用)	（経済学特講－国際金融論）02～10E・CBCC生読替

講義コード	15D1120000
講義名称	情報社会論[2]　＜秋＞
科目英文名	Sociology of Information
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC3500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木島　由晶

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	本講義では、今の私たちが当たり前のようにおこなっているスマートフォンで検索するような情報行動が、いつごろから、どのようにして当たり前になったのかを歴史的にひもといてみたい。具体的には、電話やインターネットの歴史を概観して、情報社会の来歴を探ってみたい。そうすることで、「インターネットで世の中が変わる」という紋切型ではとらえきれない、社会現象の繊細さ（そして面白さ）に気づくことができるだろう。時代の動きはとかく忙しく感じるけれども、世の中はそんなに急には変わっていかないのだと実感してもらうこと、まずはそれが一番である。この講義では、近視眼的な「虫の目」ではなく、状況を俯瞰する「鳥の目」で社会をとらえてもらうことを目指す。それによって、表面的な変化に左右されず、世の中の大局的な動きをつかみとる目線を獲得してもらえたらうれしい。
学習（到達）目標	・主観的な感情と区別し、客観的に考察できる。 ・社会学的な概念を適切に用いて、現象を考察できる。 ・授業中の説明を、具体的な例に当てはめて考察できる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	情報社会のイデオロギー
第3回	コンピュータのパーソナル化
第4回	ゲームの文化と遊び方の変容
第5回	固定性から移動性へ
第6回	電話が家にやってくる
第7回	ポケットベルの不便な快適さ
第8回	スマートフォンと多機能化
第9回	コミュニケーションとは何か？
第10回	マスメディアとしてのインターネット
第11回	携帯電話と友人関係
第12回	アカウントと〈私〉の使い分け
第13回	ウェブ日記からLINEまで
第14回	個人の情報発信と出会い
第15回	まとめとふり返し

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	その他は平常点であり、授業後のコメントシート_（400字程度）で理解度をはかる。 学期末には、2000字程度の期末レポートを課す。
---------------	--

参考文献	木島由晶（2025）『好みで満ちてゆく社会——聴く・遊ぶ・愛でる・移動する文化の社会学』勁草書房。その他、講義中に提示する。
事前および事後学習の指示	学んだ内容を忘れてしまう前に、その日の内容を復習することを大切にしてほしい。講義は前に学んだ内容をふまえながら進めていくので、復習することがそのまま予習につながる。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	携帯電話、ビデオゲーム、インターネット、SNS、ブログ、ソーシャルメディア、出会い、マッチングアプリ、情報発信、歴史、コミュニケーション
備考(管理者用)	（旧：情報社会論）10～18SS・10～18L生読替☆（旧：社会学特講－情報社会論）02～09SS・02～07L生読替

<社会人の方へ>学生が興味を持てるよう、若者向けの内容となっております。悪しからずご了承ください。

講義コード	16D0140000
講義名称	コーポレート・ファイナンス（応用）　　＜秋＞
科目英文名	Corporate Finance (advanced)
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA3420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
齋藤　巡友

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要な不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な用途および配分を決定することである。コーポレート・ファイナンスでは、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達の段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資の段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分（利益還元）の段階である。本講義では、コーポレート・ファイナンスの基礎的な知識を前提とした上で、これらの財務的意思決定に関して現実の企業が直面している問題の本質を理解するのに役立つ概念や理論について学ぶ。
学習（到達）目標	コーポレート・ファイナンスに関する諸問題を理解するために必要な知識・概念、理論を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの習熟が本講義の学習目標となる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について。
第2回	投資の意思決定1：投資の評価手法
第3回	投資の意思決定2：キャッシュフローの算出
第4回	株式による資金調達
第5回	負債による資金調達
第6回	資本構成の理論1：MMの無関連命題
第7回	資本構成の理論2：トレードオフ理論、ベッキング・オーダー理論
第8回	日本企業の資本構成
第9回	利益還元政策1：利益還元の手段（配当と自社株買い）
第10回	利益還元政策2：利益還元政策の代表的な理論・仮説
第11回	コーポレート・ガバナンス1：エージェンシー問題とは、2つのタイプのエージェンシー問題
第12回	コーポレート・ガバナンス2：コーポレート・ガバナンスの仕組み
第13回	デリバティブと企業のリスクマネジメント
第14回	M&A（企業合併・企業買収）について
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	
その他	30%

成績評価の方法 （コメント）	①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、基礎的な知識や概念の理解度とそれらをどの程度応用できるかを確認するための問題を出題する。問題は短答式・記述式（計算問題を含む）を組み合わせた形式となる。成績評価における点数配分は70％ ②授業の理解度を問う小課題を複数回実施する。成績評価における点数配分は30％
-------------------	--

参考文献	砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門〈第2版〉』日本経済新聞社 高橋文郎・井出正介著『経営財務入門 第4版』日本経済新聞出版社 米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ リチャード＝ブリーリー・スチュワート＝マイヤーズ・フランクリン＝アレン著 『コーポレートファイナンス 第10版 上』日経BP社 『コーポレートファイナンス 第10版 下』日経BP社 ジョナサン＝パーク・ピーター＝ディマーズ著 『コーポレートファイナンス入門編第2版』丸善出版株式会社 『コーポレートファイナンス応用編第2版』丸善出版株式会社 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳著『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子著『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子著『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
事前および事後学習の指示	講義前に講義資料をアップロードするので、準備学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	株式、負債、最適資本構成、ペイアウト、投資評価、コーポレート・ガバナンス、デリバティブ、M&A
備考(管理者用)	（旧：経営財務論）02～07生読替☆（旧：経営財務論（応用））08～20生読替

講義コード	1A10150000
講義名称	世界の市民-日本の「食」のローカルとグローバル　＜秋＞
科目英文名	World　Citizen-Japan's food system:From local and global perspective
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
室屋　有宏

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	皆さんが毎日食べている食料はどのように生産され手元に届くのだろうか？そこには農業や水産業、食品加工業、食品流通業・小売業など多くの産業が関わっている。また日本の食は「ローカル」と「グローバル」が一体化しながら今日の多様で高度なシステムとなっている。本講義では、日本の食生活を支えるさまざまな産業をフードシステムと捉え、各産業が相互に関連し合い、また内外の資源を取り込み、消費者ニーズに対応しているのかについて考察する。さらに食はたんに経済ビジネスだけでなく、地域、自然環境、安全性など幅広い問題ともつながっていることについて理解を深めてもらいたい。
学習（到達）目標	1．日本の食と農を支える産業・ビジネスについて知る。 2．現在の日本の食と農が直面する問題点や課題について学ぶ。 3．長期的かつグローバルな視点から、望ましい食と農のあり方について自ら考える。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション～私たちの食、日本の食と農はどう変化してきたのか
第2回	日本の食料消費の変化
第3回	低下する日本の食料自給率～農業を持たない日本の食
第4回	100億人～私たちは何を食べるのか？
第5回	食と環境問題～食品ロスを中心に
第6回	食と安全安心問題～100%安全な食品はない
第7回	日本農業の現状（１）多様な農業の姿
第8回	日本農業の現状（２）日本農業を取り巻く課題～誰が農業を担っていくか（中間テスト）
第9回	日本農業の現状（３）「令和の米騒動」の背景と今後
第10回	生鮮食品の流通～青果物の価格はどのように決まるか
第11回	食品製造業～２極化がみられる産業構造
第12回	外食と中食～外食から中食へ、食の簡便化の流れ
第13回	スーパーマーケット～小売主導フードシステム
第14回	コンビニエンスストア～日本型コンビニの発展と持続可能性
第15回	まとめ～持続的な食と農のあり方（期末テスト）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	1. 講義内容についての理解度を図る小テストを授業中に実施する。 2. 中間、学期末試験を実施する 3. レポート課題を課す場合がある。
---------------	--

参考文献	時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博「フードシステムの経済学」第5版（医歯薬出版） 清水みゆき・高橋正郎「食料経済（第5版）：フードシステムからみた食料問題」（オーム社） 大浦裕二・佐藤和憲編著『フードビジネス論～食と農の最前線を学ぶ』（ミネルヴァ書房）
事前および事後学習の指示	食や農、また地域産業について関心を持ち、新聞・ニュース等に日常的に目を通すようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：世界市民-日本の「食」のローカルとグローバル）02～19生読替

講義コード	1N06070000
講義名称	西洋法制史B　＜秋＞
科目英文名	European Legal History B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2600
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
鈴木　康文

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	近世から第2次大戦までのヨーロッパにおける法と法学の歴史を概観します。 できるだけ史料（邦訳）を紹介し、読み解いていきます。
学習（到達）目標	①各時代の政治・社会の状況を理解する。 ②（①を前提に）各時代の法と法学のあり方を学び理解する、史料を読み解きその歴史的意味を理解する。 ③過去との比較を通じて現代の法のあり方を考察する。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンスおよび【近世】繋がりゆくヨーロッパと世界　※テキスト第11講
第2回	【近世】マイノリティたちの西洋法史　※テキスト第12講
第3回	【近世】西洋法史における主権国家の萌芽　※テキスト第13講
第4回	【近世】西洋法史における近世自然法論の役割　※テキスト第14講
第5回	【近世】自由主義経済と西洋法史　※テキスト第15講
第6回	近世の復習と補足
第7回	試験と解説（1回目）
第8回	【近代】ドイツ同盟から北ドイツ連邦まで　※テキスト第16講
第9回	【近代】ドイツ帝国からナチス政権まで　※テキスト第17講
第10回	【近代】出版・結社の自由、課税権・予算権　※テキスト第18講
第11回	【近代】法源、契約、所有　※テキスト第19講
第12回	【近代】プロイセンの法曹養成　※テキスト第20講
第13回	近代の復習と補足
第14回	試験と解説（2回目）
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%

その他	0%
-----	----

成績評価の方法（コメント）	論述試験（2回）と小テストの点数により成績を評価します。 ※論述試験と小テストの詳細（割合、実施方法など）を含め、成績評価については第1回ガイダンスで説明します。必ず出席してください。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	宮坂渉・松本和洋・ 出雲孝・鈴木康文	史料からみる西洋法史	大学オンライン 販売	978-4589043399	法律文化社	2024年

事前および事後学習の指示	事前学習：教科書・授業資料をよく読んでおいてください。 事後学習：教科書・授業資料を使って復習してください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：西洋法制史）17～19J生読替☆（旧：法制史-西洋法制史）02～16J生読替